



「環の国」化学物質と環境
—円卓会議:意見—

2002年2月6日

化学リーグ21 政策センター

代表 山本 喜久治




1. 化学リーグ21と化学産業の概要

- ◆ **組織人員**: 10万人強
今秋、新組織に発展して約20万人へ
→JEC連合
基礎化学品、化成品、医薬品、肥料・農薬
写真感光材、電子材料、油脂・食品、
サービス一般 ほか
- ◆ **化学産業**: 1999年
出荷額23兆円(4位) 設備投資1.6兆円
付加価値11.5兆円(3位)
研究開発投資1.6兆円 従業者37万人



2. 労働組合の環境活動

- ◆ ナショナルセンター(連合):
環境関連政策法制化への対応、エコライフ
- ◆ 産別本部(化学リーグ21):
化学を中心とした環境政策、業種・単組対策
- ◆ 加盟組合(企業別組織):
環境ボランティア、緑化・植林等
- ◆ 化学リーグ21:環境課題の立脚点
 - ◆ 環境との共存なしに産業の存立はない
 - ◆ 環境保全は化学産業の技術力、開発力が不可欠な条件となる
 - ◆ 環境政策適応をはかるための技術や原燃料転換は段階的に進め、雇用への激変は緩和する



3. 化学物質をめぐる社会的状況: 問題についての理解と関心

① 漠然とした不安

→ 化学物質 = 体に良くない、天然・自然志向

② 専門知識・用語のかべ

→ 許容量、危険性、実感がつかめない

③ 当事者の意見交流が進まない

→ 対策は急務、十分な合意になっているか？

- ・ 問題の核心や実体に脚を置く

- ・ 一面的な主張から結論を引き出さない

- ・ 対立から対話へ

- ・ 各自の主張から合意形成へ

- ・ 実践的対策はコミュニケーションの持続から



4. 円卓会議へ望むもの： リスクコミュニケーションの場として

◆ 産業界：

- ①情報や行動については開示・公開の原則で対応する
- ②外部から指摘される前に、能動的に対応を行う評価もしてもらう
- ③業界団体、企業での環境管理セクションの強化・充実
- ④環境対策の社会的・組織的な側面をより重視する

◆ 行政：

- ①国民から分かりにくい、省別縦割りの政策ではなく核心の分かり易い政策を
- ②NGO、企業そして組合他の民間の環境活動を促進する視点で政策を立案する
- ③多面的な資質を有した「環境人材」育成に力を入れる、分散しがちな関係者の交流の場づくりにも配慮して欲しい：環境交流カレッジ
- ④市民のライフスタイルや企業の事業構造といったマクロ面の環境改善、政策を充実させる

◆ 消費者・市民・NGO：

- ①労働組合としては忌憚のない対話を望んでいる
- ②業界との対話は低いハードルから初めて欲しい
- ③責任ある管理のためにも、事業活動の基盤については配慮が欲しい

山本喜久治 略歴

(やまもと きくじ)

2001年11月現在

1948年10月15日 東京都出身

慶応大学法学部卒業

法政大学大学院経済学専攻博士課程単位取得

90年 合化労連産業政策局長 中央執行委員を経て 産業政策アドバイザー

現職 : 化学リーグ21政策センター代表

医薬品産業労働組合協議会 顧問

93～99年3月まで法政大学経済学部兼任講師を兼務 現在は休業

専門：経済政策 景気循環 産業組織 環境・化学産業論 社会保障

労働組合での主要業務分野：マクロ経済分析 産業構造調整政策 社会保障関連政策

個別業界市場調査 環境関連政策

主要業績

共著書『アメリカ自動車市場の構造（上・下）』（1980・法政大学大学院紀要）

論稿 「アメリカにおける生産性問題 一下からの改革は成功するか」

『新保守主義の社会経済政策』所収（1990・法政大学比較経済研究所・共著）

「モータリゼーションと都市交通」

『お茶の間の都市問題』所収（1981・ぎょうせい）

『世紀末資本主義と景気循環の特色』（1996・京都府立勤労者学園研究年報）

『地球時代の環境政策：化学産業からの認識と展望』（2001・4労働調査協議会）

編纂 政策レポート・化学エネルギー薬品工業委員会 1992. 7

『魅力ある医薬品産業をめざして』

化学連合医薬品委員会 1998. 10

『医薬品委員会ビジョン研究会・研究報告書』

化学リーグ21年金・税制改革プロジェクト 2001. 4

『私たちの提案する年金・税制改革』

以上